

リンパ腫グループ：古典的ホジキンリンパ腫 治療開発マップ

2026.03.

対象	標準治療	JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬/適応外薬
限局期 臨床病期 I 縦隔バルキー病変なし 臨床病期 II	ABVD(4コース) +領域照射(30 Gy)  予後不良因子がない場合 ABVD(2コース) +領域照射(20 Gy)		HD10 (LYSA/EORTC/FIL) NCT00265018 RAPID (NCRI) NCT00943423 HD16 (GHSG) NCT00736320 RADAR (UCL) NCT04685616	
進行期 縦隔バルキー病変あり 臨床病期II 臨床病期 III 臨床病期 IV	ABVD (6, 8コース) 部分奏効例では、 残存部位に照射(30Gy)を追加 BV-AVD (6コース) 60歳以下 ABVD 2コース後 中間 PET陰性 →ABVD療法4コース 中間 PET陽性 →増量BEACOPP6コース	JCOG1305 ABVDによる寛解導入 中間 PET陰性群→ABVD療法継続 中間 PET陽性群→増量BEACOPP 2015.11~2020.2→2030.2 レイサマリ-JCOG1305 	BV+AVD vs. ニボルマブ+AVD (SWOG) NCT03907488 BEACOPP vs. BrECADD (GHSG) NCT02661503	
再発	65歳以下 救援化学療法および 自家末梢血幹細胞移植 併用大量化学療法 66歳以上 救援化学療法  BV ニボルマブ、 ベムプロリズマブ			

ABVD（ドキソルビシン、ブレオマイシン、ビンブラスチン、ダカルバジン） AVD（ドキソルビシン、ビンブラスチン、ダカルバジン）

BEACOPP（ブレオマイシン、エトポシド、ドキソルビシン、シクロホスファミド、ビンクリスチン、プロカルバジン、プレドニゾン）

BV（ブレンツキシマブ・ベドチン）

領域照射療法：治療前に病変があった領域のみに照射する方法

中間 PET：治療中間でのPETによる画像診断

救援化学療法：初回治療後の再発または治療抵抗性患者に対して行う化学療法

予後不良因子：縦隔バルキー病変の存在、節外病変の存在、血沈亢進（B症状なしの場合 $\geq 50\text{mm}/\text{時間}$ 、B症状ありの場合 $\geq 30\text{mm}/\text{時間}$ ）、3カ所以上の病変の存在

リンパ腫グループ：濾胞性リンパ腫 (Grade1-3A)

治療開発マップ

2026.03.

対象		標準治療		JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬 /適応外薬
限局期		領域照射 (24-30 Gy) (照射適応外では進行期に準じた治療方針) 				
進行期	低腫瘍量	リツキシマブ 	無治療経過観察	JCOG0203 R-CHOP-21 vs R-CHOP-14 第II/III相試験 2002.9 →2007.2	JCOG1411 無治療経過観察 vs. リツキシマブ早期介入 第III相試験 2016.12~2023.3→2028.3 レイサマリー-JCOG1411 	リツキシマブ・ ヒアルロニダーゼ
	高腫瘍量	オビヌツズマブ併用化学療法 ¹⁾ リツキシマブ併用化学療法 ¹⁾ (奏効例にオビヌツズマブ/リツキシマブ維持療法) 		JCOG2008 オビヌツズマブ+ベンダムスチン療法後、完全代謝奏効例 オビヌツズマブ維持療法 vs. 無治療経過観察 第III相試験 2021.10~	エブリタマブ+R2 vs. 免疫化学療法 第III相試験 (ジェンマブ) モスネツズマブ+レナリドミド vs. 抗CD20抗体+化学療法 第III相試験 (中外製薬) R+AZD0486 vs. 抗CD20抗体+化学療法 第III相試験 (アストラゼネカ)	リツキシマブ・ ヒアルロニダーゼ
再発		リツキシマブ併用化学療法 ²⁾ オビヌツズマブ併用化学療法 ¹⁾	リツキシマブ		モスネツズマブ+レナリドミド vs. リツキシマブ+レナリドミド療法 第III相試験 (中外製薬) アキシカブタゲンシロルユーセル vs. 標準療法 第III相試験 (ギリアド) ザヌブルチニブ+オビヌツズマブ vs. レナリドミド+リツキシマブ 第III相試験 (BeOne)	リツキシマブ・ ヒアルロニダーゼ アキシカブタゲンシロルユーセル
		二重特異抗体 モスネツズマブ エブリタマブ	CAR-T細胞療法 チサゲンレクルユーセル リソカブタゲン マラルユーセル			
		タファシタマブ+R2	領域照射	造血幹細胞移植		
		無治療経過観察				

領域照射：治療前に病変があった領域のみに照射する方法

R-CHOP (リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキシソルピシン、ビンクリスチン、ブレドニゾロン)

R2 (リツキシマブ、レナリドミド)

1) 化学療法：CHOP, CVP (シクロホスファミド、ビンクリスチン、ブレドニゾロン) またはベンダムスチン

2) 化学療法：CHOP, CVP, ベンダムスチンまたはレナリドミド

※ phase I/II試験については記載していません

リンパ腫グループ：びまん性大細胞型B細胞リンパ腫

治療開発マップ（DLBCL） 若年者 2026.03.

対象 病期 国際予後指標		標準治療	JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬/ 適応外薬			
初 発	限局期	リスクなし	R-CHOP（4コース）	Non GCB DLBCLに対する R-CHOP +/- アカラブルチニブの ランダム化第III相試験 (アストラゼネカ) (75歳以下) R-CHOP +/- エブ コリタマブのラン ダム化第 III相試 験（ジェ ンマブ/ アッ ヴィ） Pola-R- CHP +/- グロフィ タマブの ランダム 化第III 相試験 （中外・ ロシュ） オドロネ クスタ マブ + CHOPと R-CHOP のランダ ム化第 III相試 験（リ ジェネロ ン） R-CHP+ ジロベル タマブベ ドチンと R-CHOP のランダ ム化第 III相試 験（MSD ） アントラサイクリンが 不適格患者に対するエ ブコリタマブ単剤また はレナリドミド併用療 法の第II相試験（ジェ ンマブ）	JCOG2201 CNS再発 高リスク例に対する再発 予防のランダム化第III相 試験 2023/12～			
		全リスク	R-CHOP（3コース） + 領域照射					
		低中～高 リスク	R-CHOP（6～8コース） (JCOG0601) ポラツズマブベドチン +R-CHP（6コース）					
		進行期	低リスク					R-CHOP （6～8コース） (JCOG0601)
			低中リスク					ポラツズマブベドチン +R-CHP（6コース） （80歳以下）
	中高リスク							
	高リスク							
	再 発	全病期/全リスク	救援化学療法および ASCT併用大量化学療法		JCOG0908 自家末梢血幹細胞移植 ランダム化第II相試験 2010/6～2015/2	救援化学療法とエブコリタマブの 第III相試験（アッヴィ） エブコリタマブ+レナリドミドと R-GemOxの第III相試験（アッヴィ） ツシジノスタート・リツキシマブの第 II相試験（Meijiファルマ） ロンカスツキシマブ・デシリンの 第II総試験（田辺） ロンカツキシマブ・デシリン +リツキシマブと免疫化学療法の 第III相試験（田辺） rapcabbage autoleucelの 第I/II相試験（ノバルティス）	グロフィタマブ+GemOxとR-GemOx の第III相試験（中外） オドロネクスタマブの第II相試験 （REGENERON） オドロネクスタマブと化学療法の第III 相試験（REGENERON） タファシタマブ + レナリドミドの 第II相試験（インサイト・バイオサイ エンシス・ジャパン）	セリネキサ オドロネクスタマブ グロフィタマブ
			BR±ポラツズマブベドチン					
			モスネツズマブ+ポラツズマブベドチン					
エブコリタマブ								
CAR-T細胞療法 チサゲンレクルユーセル* アキシカブタゲンシロルユーセル*、** リソカブタゲンマラルユーセル*、**								

R-CHOP（リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキシソルピシン、ピンクリスチン、ブレドニゾロン）、Pola-R-CHP（ポラツズマブベドチン、リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキシソルピシン、ブレドニゾロン） 領域照射：治療前に病変があった領域のみに照射する方法
 *：初発では2回以上、再発では再発後に化学療法を1回以上施行し、完全奏効が得られなかった又は完全奏効が得られたが再発した場合で自家造血幹細胞移植（ASCT）の適応とならない又はASCT後に再発した患者に限る。 ** 初回治療不応または初回治療から12ヶ月以内に再発した場合。

リンパ腫グループ：びまん性大細胞型B細胞リンパ腫 治療開発マップ（DLBCL） 高齢者 2026.03.

対象 病期 国際予後指標		標準治療	JCOG試験	他組織の試験				主な未承認薬/ 適応外薬		
初発	限局期	全リスク	R-CHOP (3コース) + 領域照射	JCOG2201 CNS再発高リスク例 再発予防第III相試験 ポラツツマブ ベドチン + R-CHP療法 髄腔内投与 VS. ポラツツマブ ベドチン + R-CHP療法 髄腔内投与 R-大量メトトレキサート療法 2023/12～	Non GCB DLBCLに対する R-CHOP +/- アカラブルチニ ブのランダム化 第III相試験 (アストラゼネ カ) (75歳以下)	アントラサイク リンが不適格患 者に対するエプ コリタマブ単剤 またはレナリド ミド併用療法の 第II相試験 (ジェンマブ)	モスネツズマ ブ単剤の第II 相試験 (中 外・ロシュ)	全量化学療 法不適格患 者に対する pola-R-グロ フィタマブ の第II相試験 (オーストリ ア、ドイツ)		
		低中～高 リスク	R-CHOP (6～8コース) (JCOG0601)		ポラツツマブベドチン +R-CHP (6コース) (80歳以下)					
	進行期	低リスク	R-CHOP (6～8コース) (JCOG0601)		R-CHOP +/- エプ コリタマ ブのラン ダム化第 III相試 験 (ジェ ンマブ/ アッ ヴィ)	Pola-R- CHP +/- グロフィ タマブの ランダム 化第III相 試験 (中 外・ロ シュ)	オドロネク スタマブ+ CHOPとR- CHOPのラン ダム化第III相 試験 (リジェ ネロン)	R-CHP+ジ ロベルタマ ブベドチン とR-CHOP のランダム 化第III相試 験 (MSD)		80歳以上に對 するPola-R- miniCHPとR- miniCHOPの第 III相試験(Nordic lymphoma group)
		低中リスク								
		中高リスク	ポラツツマブベドチン +R-CHP (6コース) (80歳以下)		Golcadomide +/- R-CHOP の ランダム化第III 相試験 (BMS)	R-CHOP +/- タファシタマブ+レナリドミドのラン ダム化第III相試験 (インサイト・バイオサイエンス・ ジャパン) アキシカブタゲンシロルユーセルと標準治療 の ランダム化第III相試験 (ギリアド)				
再発	全病期/全リスク	高リスク								
		救済化学療法		救済化学療法とエプコリタマブの 第III相試験 (アッヴィ)	グロフィタマブ+GemOxとR-GemOx の第III相試験 (中外)			セリネキサ		
		BR±ポラツツマブベドチン		エプコリタマブ+レナリドミドと R-GemOxの第III相試験 (アッヴィ)	オドロネクスタマブの第II相試験 (REGENERON)			オドロネクスタマブ		
		モスネツズマブ+ポラツツマブベドチン		ツシジノスタット・リツキシマブの第 II相試験 (Meijiファルマ)	オドロネクスタマブと化学療法の第III 相試験 (REGENERON)			グロフィタマブ		
		エプコリタマブ		ロンカスツキシマブ・デシリンの 第II総試験 (田辺)	タファシタマブ + レナリドミドの 第II相試験 (インサイト・バイオサイ エンス・ジャパン)					
CAR-T細胞療法 チサゲンレクルユーセル* アキシカブタゲンシロルユーセル*, ** リソカブタゲンマラルユーセル*, **				ロンカツキシマブ・デシリン +リツキシマブと免疫化学療法の 第III相試験 (田辺)						
				rapcabtagene autoleucelの 第I/II相試験 (ノバルティス)						

R-CHOP (リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキシソルピシン、ビンクリスチン、プレドニゾロン)、
Pola-R-CHP (ポラツズマブベドチン、リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキシソルピシン、プレドニゾロン) 領域照射：治療前に病変があった領域のみに照射する方法
*：初発では2回以上、再発では再発後に化学療法を1回以上施行し、完全奏効が得られなかった又は完全奏効が得られたが再発した場合で自家造血幹細胞移植 (ASCT) の適応とならない又はASCT
後に再発した患者に限る。 ** 初回治療不応または初回治療から12ヶ月以内に再発した場合。

リンパ腫グループ：マントル細胞リンパ腫

治療開発マップ 2026.03.

対象		標準治療	JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬 /適応外薬
初発 / 未治療	限局期 臨床病期 I non-bulky II	領域照射 リツキシマブ併用 化学療法+領域照射			
	若年進行期 (65歳以下) 臨床病期 II 臨床病期 III 臨床病期 IV	リツキシマブ+シタラピン大量療法を含む化学療法/自家移植 JCOG0406 (R-HiCHOP/CHSER/LEED) → R維持療法		ベンダムスチン+リツキシマブ/シタラピン +/-アカラブルチニブ (EA4181, 第II相試験) 寛解導入療法によるPET-/MRD-患者での自家移植有無 (EA4151, 第III相試験) R-CHOP+イブルチニブ/R-DHAP (→自家移植)→イブルチニブ維持療法 (TRIANGLE試験, European MCL Network)	R-CHOP+イブルチニブ/R-DHAP→自家移植→イブルチニブ維持療法
	高齢進行期 (66歳以上) 臨床病期 II 臨床病期 III 臨床病期 IV	R-CHOP+R維持療法 VR-CAP ベンダムスチン+リツキシマブ ±イブルチニブ or アカラブルチニブ		ベンダムスチン+リツキシマブ vs ザヌブルチニブ+リツキシマブ 第III相試験 (BeiGene)	
再発		イブルチニブ アカラブルチニブ イブルチニブ+ベネトクラクス ピルトブルチニブ 救援化学療法 ボルテゾミブ ±リツキシマブ 造血幹細胞移植		グロフィタマブ (中外製薬, GLOWING試験) ピルトブルチニブ vs イブルチニブ/アカラブルチニブ/ザヌブルチニブ 第III相試験 (LOXO oncology) ブレクスカブタジェンアウトユーセル (CAR-T細胞療法, Gilead/Kite)	レナリドミド ザヌブルチニブ リソカブタゲン マラルユーセル

自家移植：自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法
 領域照射：治療前に病変があった領域のみに照射する方法
 R-CHOP (リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキシソルビン、ビンクリスチン、プレドニゾン)
 CHASER (シクロホスファミド、シタラピン、エトポシド、デキサメタゾン、リツキシマブ)
 LEED (メルファラン、シクロホスファミド、メスナ、エトポシド、デキサメタゾン)
 VR-CAP (ボルテゾミブ、リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキシソルビン、プレドニゾン)
 R-DHAP (リツキシマブ、デキサメタゾン、シタラピン、シスプラチン)

リンパ腫グループ：成人T細胞白血病・リンパ腫（ATL）

治療開発マップ 2026.03.

対象		標準治療		JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬 /適応外薬	分類
くすぶり型	症候なし	無治療経過観察					インディレントATL
	症候あり	無治療経過観察	皮膚病変を有する場合 局所治療あるいは ベキサロテン	JCOG1111C インターフェロン/ジドブジン vs. 無治療経過観察 第III相試験 2013.9～2018.3→2025.3			
慢性型 (予後不良因子なし)							
急性型・リンパ腫 型・慢性型（予後不良因子あり ¹⁾ ）	初発	多剤併用化学療法 ²⁾ ±モガムリズマブ ³⁾ ±ブレントキシマブベドチン ⁴⁾ ±同種造血幹細胞移植 ⁵⁾	モガムリズマブ 併用CHOP-14 療法 ⁶⁾ (66歳以上、移植 を希望しない56歳 以上)	JCOG0907 同種移植 単アーム 第III相試験 2010.9～2020.6→2023.6 レイサマリーJCOG0907	移植後シクロフォスファミドを用いた 非血縁者間末梢血幹細胞移植の安全 性・有効性を検討する第II相試験 (国立がん研究センター中央病院他)		アグレッシブATL
急性型・リンパ腫 型・慢性型（予後不良因子あり ¹⁾ ）	再発・ 治療抵抗性	救済化学療法±同種造血幹細胞移植 ⁵⁾ モガムリズマブ ³⁾ ブレントキシマブベドチン ⁴⁾ レナリドミド ツジジノスタット バレメトスタット ベキサロテン ⁷⁾			ニボルマブ 第II相試験（鹿児島大学他） Taxを標的とする樹状細胞ワクチン療法 第II相試験（九州がんセンター他） ⁹⁾ ゴルカドミド第I/II相試験 （ブリストル・マイヤーズ スクイブ） ロベグインターフェロン アルファ-2b第II相 試験（ファーマエッセンシアジャパン） アミノレブリン酸塩I/II相試験 (JIMRO) ⁸⁾		

1) 予後不良因子を有する慢性型；慢性型ATLのうち、予後不良因子（BUN>基準値上限、LDH>基準値上限、アルブミン<基準値下限）いずれかを有するもの
2) VCAP-AMP-VECPが推奨される：VCAP（ビンクリスチン、シクロホスファミド、ドキソルビシン、ブレドニゾロン）、AMP（ドキソルビシン、ラニムスチン、ブレドニゾロン）、VECP（ビンデシン、エトポシド、カルボプラチン、ブレドニゾロン）
3) ATL細胞がCCR4陽性の場合 4) ATL細胞がCD30陽性の場合（多剤併用化学療法はCHP（シクロホスファミド、ドキソルビシン、ブレドニゾロン）に限定）
5) 70歳以下の場合。同種造血幹細胞移植の適応となる患者への移植前モガムリズマブ使用は、移植片対宿主病による死亡リスクを高める可能性が報告されており、risk/benefitを慎重に判断する
6) CHOP（シクロホスファミド、ドキソルビシン、ビンクリスチン、ブレドニゾロン） 7) 皮膚病変を有する場合 8) 末梢血病変を有する場合
9) 前治療でPR以上の効果が得られた患者への維持療法

リンパ腫グループ：末梢性T細胞リンパ腫

治療開発マップ 2026.03.

対象		標準治療	JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬 /適応外薬
初発	CD30 陰性	CHOP-21 	JCOG2210 未治療末梢性T細胞リンパ腫 ランダム化第III相試験 経過観察 vs. 自家末梢血幹細胞移植併用大量 化学療法 2024.6～	未治療末梢性T細胞リンパ腫に 対するHDT with ASCTのラン ダム化第III相試験（Lysa、 ECOG-ACRIN）	
	CD30 陽性	BV + CHP 			
再発		65歳以下 救援化学療法および 自家末梢血幹細胞移 植併用大量化学療法	66歳以上 救援化学療法	ニボルマブ 第II相試験（九州大学他）	ベリノスタット クリゾチニブ ⁴⁾
		プラトレキサート	ロミデプシン	ゴルカドミド 第I/II相試験（BMS）	
		フォロデシン	BV ²⁾		
		モガムリズマブ ³⁾	アレクチニブ ⁴⁾		
		デニロイキン・ジ フチトクス	ツシジノスタット		
			ダリナパルシン		
			バレメトスタット		

※ 第I相試験については記載しておりません

1) PTCLを含むaggressive lymphomaを対象

2) CD30陽性の場合

3) CCR4陽性の場合

4) ALK陽性未分化大細胞リンパ腫の場合

5) AITL, 濾胞性ヘルパーT細胞リンパ腫の場合

BV（ブレンツキシマブ・ベドチン）

CHP（シクロホスファミド、ドキソルビシン、プレドニゾロン）

CHOP（シクロホスファミド、ドキソルビシン、ビンクリスチン、プレドニゾロン）

リンパ腫グループ：節外性NK/T細胞リンパ腫、鼻型

治療開発マップ 2026.03.

対象	標準治療	JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬 /適応外薬
臨床病期 IE	鼻腔(周辺)限局： アントラサイクリンを含まない化学療法と放射線治療の同時または逐次的併用療法			
臨床病期 IIE	JCOG0211-DI (RT-2/3DeVIC) 			
臨床病期 IIIE				
臨床病期 IV	L-アスパラギナーゼを含む化学療法(SMILEなど)			
再発	 アテゾリズマブ		再発難治性末梢性T細胞リンパ腫に対するニボルマブ医師主導臨床第II相治験 (West-JHOG, CReS九州) ゴルカドミド第I/II相試験 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ)	オキサリプラチン ペムブロリズマブ ニボルマブ

SMILE (デキサメタゾン、メトトレキサート、イホスファミド、L-アスパラギナーゼ、エトポシド)
DeVIC (カルボプラチン、エトポシド、イホスファミド、デキサメタゾン)

リンパ腫グループ：未治療骨髄腫

治療開発マップ 2026.03.

対象	標準治療	JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬 /適応外薬
くすぶり型骨髄腫	無治療経過観察 D (高リスクが主な対象)		イサツキシマブ+Ld vs Ld P3(サノフィ)	
自家移植適応 多発性骨髄腫	抗CD38抗体-BLd→自家末梢血幹細胞 移植併用メルファラン大量療法 →「抗CD38抗体-L維持療法」または イキサゾミブ維持療法		D-BLd→ASCT vs D-BLd→Cilta-cel P3 (ヤンセン) 自家移植後、Iberdomide vs L P3 (BMS) 自家移植後、Elra vs L P3 (ファイザー)	カーフィルゾミブ イキサゾミブ サリドマイド ボマリドミド BCMA標的治療
自家移植非適応 多発性骨髄腫	D-MPB-D維持 D-Ld 抗CD38抗体-BLd (Fitが対象)	JCOG1911 ※1 D-MPB療法後 D維持 vs. D-B維持 ランダム化第III相試験 2021.1～ 2025.3.17	BLd→Ld vs BLd→Cilta-cel P3 (ヤンセン) 二重特異性抗体 ・ Elra+D-L vs Elra+L vs D-Ld P3 (ファイザー) ・ Tec+D-L vs Tal+D-L vs D-Ld P3 (ヤンセン) ・ D-Ld→linvo vs D-Ld P3 (リジェネロン) ・ Etentamig+D vs D-Ld P3 (AbbVie) Bela+Ld vs D-Ld P3 (BMS)	カーフィルゾミブ イキサゾミブ サリドマイド ボマリドミド BCMA標的治療

B (ボルテゾミブ)
d (デキサメタゾン)
D (ダラツムマブ)
L (レナリドミド)
I (イサツキシマブ)
MPB (メルファラン+ブレドニゾロン+ボルテゾミブ)

Cilta-cel (シルタカブタゲン オートルユーセル)
Elra (エルラナタマブ)
Tec (テクリスタマブ)
Tal (タルケタマブ)
Linvo (リンボセルタマブ)
Bela (ベランタマブ マホドチン)

※1 JCOG1105 (至適なMPB療法を選択するためのランダム化第II相試験 2016/4～2019/4) を受けて、JCOG1911を計画・実施した。

リンパ腫グループ：再発・治療抵抗性骨髄腫

治療開発マップ 2026.03.

対象	標準治療	JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬 /適応外薬
再発・治療抵抗性	Bd ※2 Td ※2 Ld Pd Cd Ld+ (イキサゾミブ or B or C) BPd ダラツムマブ+ (Bd or Cd or Ld or Pd) イサツキシマブ± (Cd or Pd or d) エロツズマブ+ (Ld or Pd) Bela + (Bd or Pd) プロテアソーム阻害剤、免疫調節薬、 抗CD38抗体の3クラス既治療例 CAR-T細胞療法 Ide-cel Cilta-cel 二重特異抗体 Elra Tec Tal		CAR-T細胞療法 • OPC-415 P1/2 (大塚) • Arlo cel P3 (BMS) • Arlo cel P2 (BMS) • Anito cel P3 (ギリヤド) • AZD0120 P3 (アストラゼネカ) 二重特異抗体 • Elra vs (EPd / BPd / Cd) (ファイザー) • Elra vs Elra+D vs DPd (ファイザー) • Tec vs (BPd / Cd) (ヤンセン) • Tal+P vs Tal+Teq vs (EPd / BPd) (ヤンセン) • Tal+DP vs Tal+D vs DPd (ヤンセン) • Etentamig vs (Kd/EpD) (AbbVie) • Linvo vs EPd (リジェネロン) • Linvo P2 (リジェネロン) CELMoDs • Iberdomide+D+d vs D-Bd P3 (BMS) • Mezigdomide+Bd vs BPd P3 (BMS) • Mezigdomide+Cd vs Cd P3 (BMS)	Selinexor Melflufen

B (ボルテゾミブ)
d (デキサメタゾン)
D (ダラツムマブ)
L (レナリドミド)
T (サリドマイド)

P (ポマリドミド)
C (カーフィルゾミブ)
I (イサツキシマブ)
E (エロツズマブ)
Bela (ベランタマブ マホドチン)

CAR (chimeric antigen receptor)
Ide-cel (イデカブタゲン ビクルユーセル)
Cilta-cel (シルタカブタゲン オートルユーセル)
Arlo-cel (アルロカブタジン オートルユーセル)
Anito-cel (アニトカブタジン オートルユーセル)

Elra (エルラナタマブ)
Tec (テクリスタマブ)
Tal (タルケタマブ)
Linvo (リンボセルタマブ)
CELMoDs (セレブロンモジュレーター)

※2 JCOG0904 (Bd vs Tdのランダム化第II相試験
(2014/10 ~2017/10) が実施された。